

5-4 アジア研究教育拠点事業

21世紀はアジアの時代と言われている。分子科学においても欧米主導の時代を離れ、新たな研究拠点をアジア地域に構築し、さらにはアジア拠点と欧米ネットワークを有機的に接続することによって、世界的な研究の活性化と新しいサイエンスの出現が期待される。

分子科学研究所では、平成18年度より平成22年度までの5年間にわたり日本学術振興会・アジア研究教育拠点事業（以下「JSPSアジアコア事業」という。）「物質・光・理論分子科学のフロンティア」を展開してきた。本事業は「我が国において先端的又は国際的に重要と認められる研究課題について、我が国とアジア諸国の研究教育拠点機関をつなぐ持続的な協力関係を確立することにより、当該分野における世界的水準の研究拠点の構築とともに次世代の中核を担う若手研究者の養成を目的として（日本学術振興会ホームページより抜粋：http://www.jsps.go.jp/j-acore/00gaiyou_acore.html）」実施されたものである。上記JSPSアジアコア事業においては分子科学研究所（IMS）、中国科学院化学研究所（ICCAS）、韓国科学技術院自然科学部（KAIST）、台湾中央研究院原子分子科学研究所（IAMS）を日本、中国、韓国、台湾の東アジア主要3カ国1地域の4拠点研究機関と位置づけ、また4拠点研究機関以外の大学や研究機関の積極的な研究交流への参加を得て、互いに対等な協力体制に基づく双方向の活発な研究交流を進めることができた。

平成23年度には上記JSPSアジアコア事業の後継として、分子研独自の予算によるIMSアジアコア事業「東アジアにおけるポスト・ナノサイエンスを指向した分子科学研究」を実施している。これは上述のJSPSアジアコア事業によって醸成したIMS-ICCAS-KAIST-IAMS相互のパートナーシップをさらに発展させ、研究会、セミナー、共同研究、研究者交流を深めるためのプラットフォーム的プロジェクトであり、平成23年度研究集会として、「第4回日韓生体分子科学セミナー—実験とシミュレーション」（日本・奈良）、「中日機能性超分子構築シンポジウム」（中国・北京）が開催された。また教育・研究集会としては、平成24年2月に「The Winter School of Asian-Core Program (Beijing)」がICCASのホストにより日本・韓国・台湾から100人超の参加を得て開催された。教育面での関連事業としては、平成24年1月に「総研大 アジア冬の学校」（日本・岡崎）も開催している。「東アジアにおけるポスト・ナノサイエンスを指向した分子科学研究」は来年度以降の更なる充実と発展を目指している。